

令和7年度 第2回大津市総合教育会議

- 1 開催日時 令和7年8月28日（木） 11:00～12:00
- 2 開催場所 新館2階 災害対策本部室
- 3 議題
（1）第3期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱の進行管理報告について
- 4 出席委員
佐藤市長、島崎教育長、田村委員、周防委員、関委員
- 5 会議に出席した事務局職員
教育部長、教育部次長、教育部次長、教育総務課長、図書館長、教育センター所長、
教職員室長、学校教育課長、学校教育課長補佐、学校教育課指導主事、児童生徒支援課長、
教育支援センター所長、教育支援センター次長、学校給食課長、生涯学習課長、
教育総務課長補佐、教育総務課係長、教育総務課主任
政策調整部次長、企画調整課長、こども・若者政策課長、幼保支援課幼児教育指導監、
いじめ対策推進室長、企画調整課長補佐
- 6 議事の経過 別紙のとおり

1. 開会

2. 議題

(1) 第3期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱の進行管理報告について

「第3期大津市教育振興基本計画 及び大津市教育大綱の進行管理報告」 説明（企画調整課）

「令和7年度 全国学力・学習状況調査の実施結果について」 説明（学校教育課）

〔質疑応答〕

○関委員

「子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます」の中の防災事業について、ここでの指標は出前講座等の回数で計られていますが、実際には学校の防災の教育であったりとか、地域で子どもが参加する取組であったりとか、子どもたちが防災を学んでいく場というのがあると思います。地震であったり、最近、雨が激しく降ったりとかいう中で水害の問題とかもありますけれども、子どもたちが関わっている防災の教育や取組としてどのようなことがあるかと、これからどういうことをしていくかを教えていただきたいです。

○事務局

現在、学校の中では、子どもたちの安全計画ということで、定期的な避難訓練等をしっかりするということはもとより、学習自体として、学校夢づくりプロジェクトに絡ませて、地域の方々とともに防災の学習を進めているところもあります。例えば、防災のかまどベンチと一緒に作りながら、その効果とか、意識を高めていく取組をしている学校や、地域の防災の取組とあわせて防災キャンプという形でやっているところがあります。総合的な学習の中で、防災というキーワードを用いながら学習を進めているところです。

○関委員

全国学力・学習状況調査の実施結果について、子どもたちが主体的に取り組む、自分たちで解決するっていうところに課題があるということでしたが、自分たちで取り組んで自分たちでやっていくというところは、大事だと思いますので、そこをこれからも注視して進めていただきたいと思います。また、学校夢づくりプロジェクトについても、子どもの豊かな発想をもとにと書いてありますが、子どもたちが主体的に取り組んで子どもたちがその夢を実現していくというところで、何か決められたことをするとかいうことではなく、主体的に関わっていけるように、進めていっていただければと思います。

○事務局

学校夢づくりプロジェクトでは、今委員がおっしゃったように、子どもたちが主体となって取り組めるように、また子どもたちの思いが実現できるような取組を目指して、ブラッシュアップをしているところです。

さらに、イベント的にならないように、学校教育課としても指導してまいりたいと思いますし、また学力学習状況調査においても、総合的な学習の時間ですとか、学級活動のところについては課題もありますので、こういったところで子どもたちの問題意識をしっかりと持たせて、自分たちで解決する取組であったり、学びであったり、そういうものをしっかりと支援していきたいと考えております。

○教育長

私の方が、今、校長あるいは教頭に、特に授業改善、主体的な学びという面で伝えている一端なのですが、どうしても教師は授業改善しようとしたときに、自分が過去に受けてきた、自分にとってよかった授業を再現しようという傾向があります。それが今の子どもたちに本当にマッチしているのかどうか。

2つ目は、子どもたちが自主的にという、子どもたちに任せる部分というのは非常に大事なのですが、任せすぎると、それは放任になってしまいます。

3つ目に、特に協働的な学びという4人グループでの学習に多いのですが、教師が多々口出しをしてしまう指導がよくあります。逆に支援を強調するあまり傍観者になってしまっているケースもあります。それでは、子どもたちの楽しい学びにも深い学びにもつながらないので、そのあたりも学校教育課あるいは教育センター、指導主事と一緒に、令和7年度の結果を受けて、また、下半期、取り組んでいきます。

○周防委員

「子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます」というところでは、もう実際に小中とも、安心できる環境じゃないっていうように、数字が下がっているのですが、それを見ていたときに、もちろんいじめの件数とか不登校というのは大きく影響していると思います。そういう中で、事業評価としては確かに目標値を達成していれば評価として○（丸）がされている。でも実際には、いじめの認知件数も多くなり、不登校も多くなっているというところで、評価って説明されても、ちょっと私には違和感があります。○×で、事業の件数が整っていれば○であって、整っていなければ×、極端な話をいえば、場合によっては非行なんかを見てみると、非行の相談件数下がりましたってこれいいことなのに、目標値より下がっていると×がついている。これを評価として、全体的にとっていいののかなっていうのが1点疑問です。

○事務局

事務事業評価を含めて今回の計画や大綱の指標ですが、改めて教育委員会でこのことの振り返りをさせていただいたときに、その指標や目標数値が本当に、その事業自体の評価を表すことなのかというところについて、実は反省も含めて総括をしていたところで、第4期の進捗の評価に向けてはその辺りも含めて考えていきたいと思います。

もう1点教育委員会として、数値以外のところ、全体的なところをとらえるかということも、非常に大事なことだと思っています。というのは、先ほどもあるように、不登校の子ども数は増えています。そうしたことの中で、どうやって立ち直った子どもたちの数を見ていくのがいいのか、それともやっぱりその中身を深めていくっていうところをどうやって、こちらとして評価していくのかというようなところも含めて、今、様々な事業をやっていることが、本当に子どもたちの支援につながっているのかというようなところも含めて、児童生徒支援課さらには教育支援センターの事業のやっていることも総括しながら、しっかりと考えていきたいと思っています。

○周防委員

ありがとうございます。

ぜひそのような評価の仕方をしていただくことが、先生方も実際に何をすれば、結果が出るのかわかりやすいと思います。評価を出されるときには、事業数だけではなくて、もう少しその背景にあるものをしっかりと絡めながら、評価を出していただきたいと思っています。

学学調査の分析と今後の手立てにおいて、大津市内、全体の分析をされて結果が出たというように思うのですが、全体の結果を見ても、各学校は自分の学校がどうしたらいいのかわからないと思うのです。また、各学校は分析したとして、ちょっとお願いがあるのは、小中を意識して中学校区による分析をやっていただくと、中学校区として何をしたいかとあかん、そうすると小学校で何をやっていったら中学校でというようにとらえられると思うので、そこまで分析をしていただけるとありがたいと思います。

○事務局

小学校での状況と、中学校での状況を貫いて、その子どもたちの経年を調べるということが大事ですので、現在、各学校の結果につきましては、それぞれ中学校区の校長等で共有をさせていただいています。先日も各学校の状況について質問も含めて、教育委員会に取りまとめたものを配った際に、それぞれのブロック、中学校区でお話をしてもらえるところもありますので、こちらでも9年間を見越して、6年生から中3で受けたとき、3年前の結果とどうだったのかというようなところも含めて検討するように指導していきたいと思っています。

○市長

第４期の計画の策定の議論の中で、こういった指標のあり方まで踏み込めなかったことを顧みながら、先ほどの教育委員会としてのお答えの中でこの指標の設定について、早速に第４期の指標を見直すということで良かったのでしょうか。

○事務局

第４期についてのみをお話をさせていただいたのではなく、今現在行っている事務事業評価を精査する際に、それぞれの目標を再度教育委員会として考えていく必要があるなという話をさせていただきました。

○市長

そうになったら抜本的に今の事務事業の評価１つ１つ点検する必要があるのですが、それを総合教育会議において、今、教育委員会が事務事業の評価として示している指標を１つ１つ点検する必要も出てくるのかなと思いますが、そこはどうですか。

○事務局

第４期の計画の進捗を評価するにあたって、第３期と同じように、それぞれ紐づく施策、事務事業をすべてとらえていくことがいいのか、もしくは抽出していく形がいいのか。そもそも、事務事業評価として、第４期の進捗評価に向けて、教育委員会としては考えていきたいとは思っております。

○市長

周防委員からのご指摘も踏まえて、教育委員会の事務事業の指標として上げている数字を計画の指標に持ってきているとするならば、こういったものを１つ１つ点検する必要があるのではないのでしょうか。

○事務局

それぞれの事務事業について教育委員会として、この指標を持って進めてきたわけですが、例えば、先ほども目標設定した数字と現状が随分かい離しているというような目標設定をしてしまっているケースも中にはあつたりしますので、そうした点において、第４期の進捗管理に向けて、教育委員会としてそれぞれのもともとの素地となる事務事業の指標のあり方、さらには、その目標設定のあり方についてはしっかりと見直しをしたいというふうに思っているところです。

○市長

教育委員会の内部で示したもので、この第4期以降を評価する上で、そもそものところも議論せねば、本来の姿が見えないのではないかと。

○田村委員

指標の議論の内容とも大いに関係しますが、この基本方針の内容を実現するために、いろんな目標を定めていると思うのですが、いわゆる基本方針が目的であって、それぞれの目的を達成するための指標として、目標値をそれぞれ定めていると思います。教育委員会は行政機関ですので、当然各事業に割り当てている予算に対する市民への説明をする必要があるわけです。教育委員会が実施している各事業の内容を網羅してあげていく中で直接的にこの基本方針の実現に向けた、目標をすべき内容とのずれがあるのも事実だと思います。そこをどう調整していくのかということで、目的の実現に向けた目標値をどう定めるのかということは、第4期に向けた大事な視点だと思っています。

学力学習状況調査の分析結果の改善方策を見ると、教育委員会と市長部局が融合して夢づくりプロジェクトがずっと進められていて、非常に学校の教育に対する大津市の特色ある活動がされていると私は思っています。夢づくりプロジェクトを各学校は、企画立案して運営するにあたって、各学校の教育課題と連関して、各学校は考えているのかどうかというのは非常に大事な視点だと思います。学校の教育の向上に向けて夢づくりプロジェクトを1つの大きな柱にして学校教育の内容を詰めていく、そういう視点で学校が考えているのかということが、ちょっと疑問な学校もあるわけです。

第4期の教育振興計画の実現に向けて、しっかりと学校がこの第3期の総括を踏まえて理解しながら、第4期の実現に向けて学校がそれぞれの学校の特色と子どもの実情に合わせて推進していく、そういう指導をして欲しいと思っています。

ただ、懸念しなければいけないのは、例えば学力の状況に関わって授業改善を進めていくという視点で、指導主事等の学校訪問をしっかりとさせていくという課長の話がありましたけれども、その中で学校の自主性や主体性に枠をはめるような指導はできるだけ避けて欲しいと。学校教育のありようというのはやっぱり学校が特色ある学校づくりに向けてやっていくわけで、指導主事は一定上から目線でこうあるべきだというふうな指導じゃなくて、個々の学校の状態を踏まえながら、指導主事が一緒に考えましょうという視点で、訪問されるのはいいと思いますけれども、これができてないあれはできてないという指摘だけで訪問されると学校も苦しい立場に追い込まれるというふうに思っています。

相対的にそういうふうなことを踏まえて、第3期の総括を考えさせていただきました。要は第4期にどう結びつけるかという視点を大事にして欲しいと思っています。

非常に実務的なことなのですが、この補足説明の目標値が、事業によってあまりにも開きが大きいものがあって、この目標値実現を実情に応じてもっと下げたらよいのではな

いかと。計画当初に決めた目標値は、そもそも簡単に変更できないというようなことを、かつて聞いたことがあるのですけれども、そうなのですかね。

○事務局

今ご指摘ありました件ですが、市長部局でもたくさんの事務事業評価を抱えてございますけれども、3期以降といいますか、5年ほどの間においては、こうした、あらかじめ定立している目標値を、状況によって上方修正したり、変更したりするということが許容されている状況でございますし、かつまた一部、教育支援事業でも組み替えてらっしゃるように、指標自体を、その状況に照らして、新たなものに置き換えるということも許容されていますので、決して硬直的に設けないといけないということはないかと思っております。

先ほどからご議論のあったところですが、今、これまでの点検評価においては、この一覧までも添える形で公表もされているところですが、今回第4期に至りましたことを受けて、多様なご指摘も踏まえて、今の事務事業のあるものを、それを確かめながら、この教育振興基本計画、教育大綱の振り返りに使うということではなく、今の新たな計画に基づく3つの基本方針に沿って、位置付けられている施策ごとにどういった評価、指標に基づく目標管理が必要かということを改めて考えた上で、また改めてこの総合教育会議の場においても、ご説明をさせていただく機会をいただけたらというふうに考えてございます。

○教育長

先ほどの周防委員の意見等も踏まえながら、昨年1年間、まず、基本理念からこの第4期の計画は、何度も何度も行き来しながら、最終総合教育会議の場で決めて、まず基本理念をどう基本方針で、またそこにどういう施策をぶら下げて実現していくかっていう建付けで1年近く議論してきたことは事実だろうと思います。

指標についても、多少この第3期の指標とは少し違った形で取り上げる指標もあるかと思いますが、ただ、市長おっしゃったように、それがやはり実現に向けて、やはりそぐわないものがあれば、5年間それを引き継ぐのではなくて、早い時点で議論し修正していくということは必要かと思っておりますので、またこの場で、何年かに1回これを議論するだけではなくて、定期的なそういう機会があればというふうに考えます。